

メディア統合プラットフォーム

メディア・デバイスによらない"テレビ"視聴と
放送関連機能のIoT対応

遠藤 大礎

日本放送協会
放送技術研究所

デバイスWebAPIコンソーシアム 第5回技術WG会合
2016/10/13

概要

- メディア統合プラットフォーム
 - 背景と目的
 - システムモデル
- サービスプロトタイプ デモ紹介
- 放送関連機能のIoT対応

あらためて、テレビとは？

テレビとは？

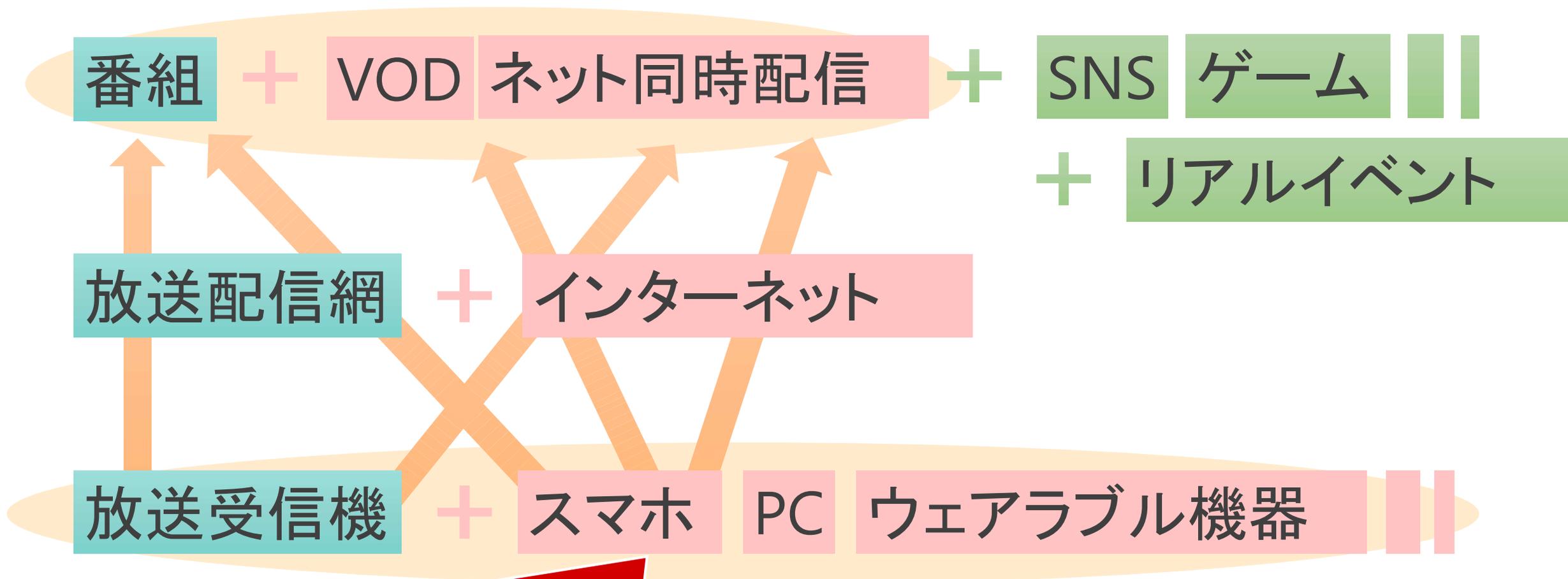
番組 映像コンテンツ 「昨日のテレビみた？」(絶滅危惧会話)の“テレビ”

多くの文脈では、これのこと

放送配信網 地上波・衛星波・ケーブルネットワークなど

放送受信機 デバイスとしてのテレビ

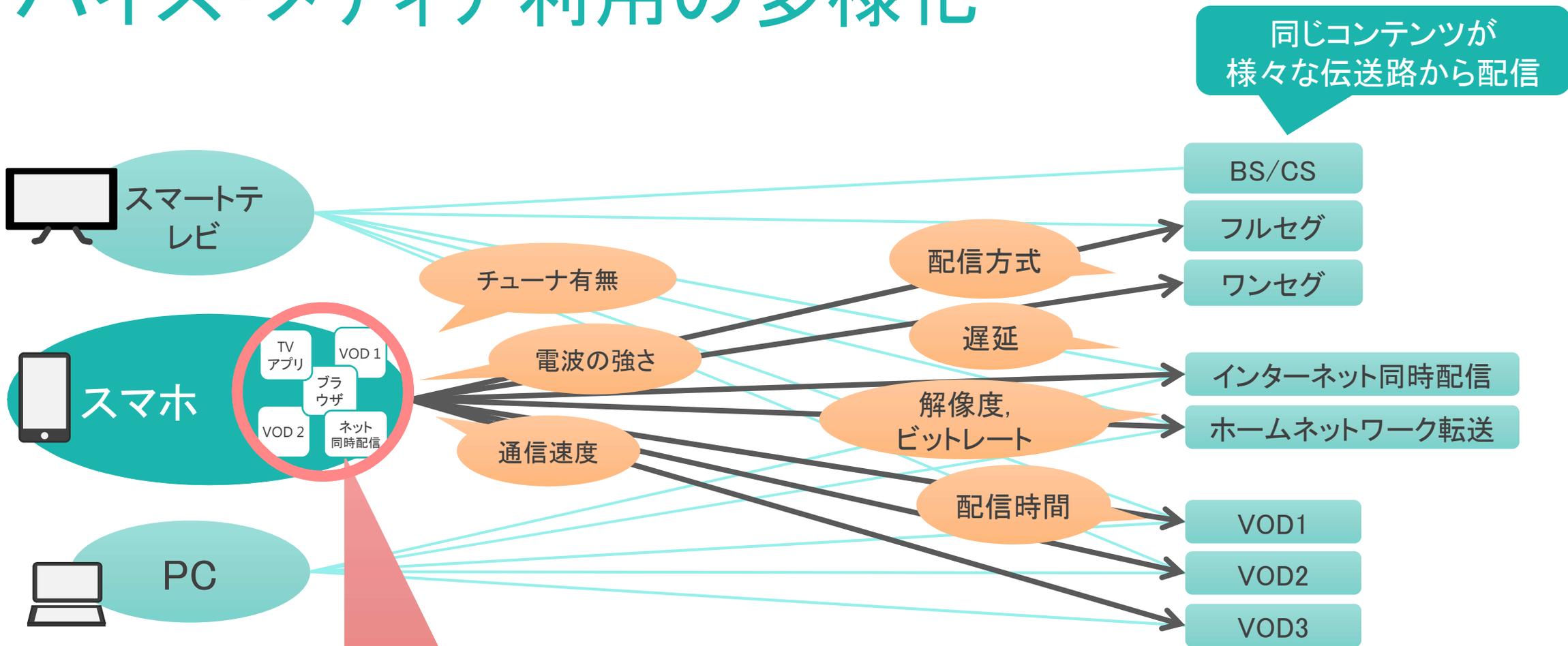
選択肢は広がるが、時間は有限



多様な選択肢を前提とした新しい“テレビ”の検討

ユーザにとってはどうなる？

デバイス・メディア利用の多様化



多くのユーザは、状況に応じてわざわざアプリの使い分けはしない

解決したいこと

ユーザ

コンテンツが**みられない**

パケット代（放送やWi-Fiだとかからないのに）

不安定・低画質視聴（もっといい方法があるのに）

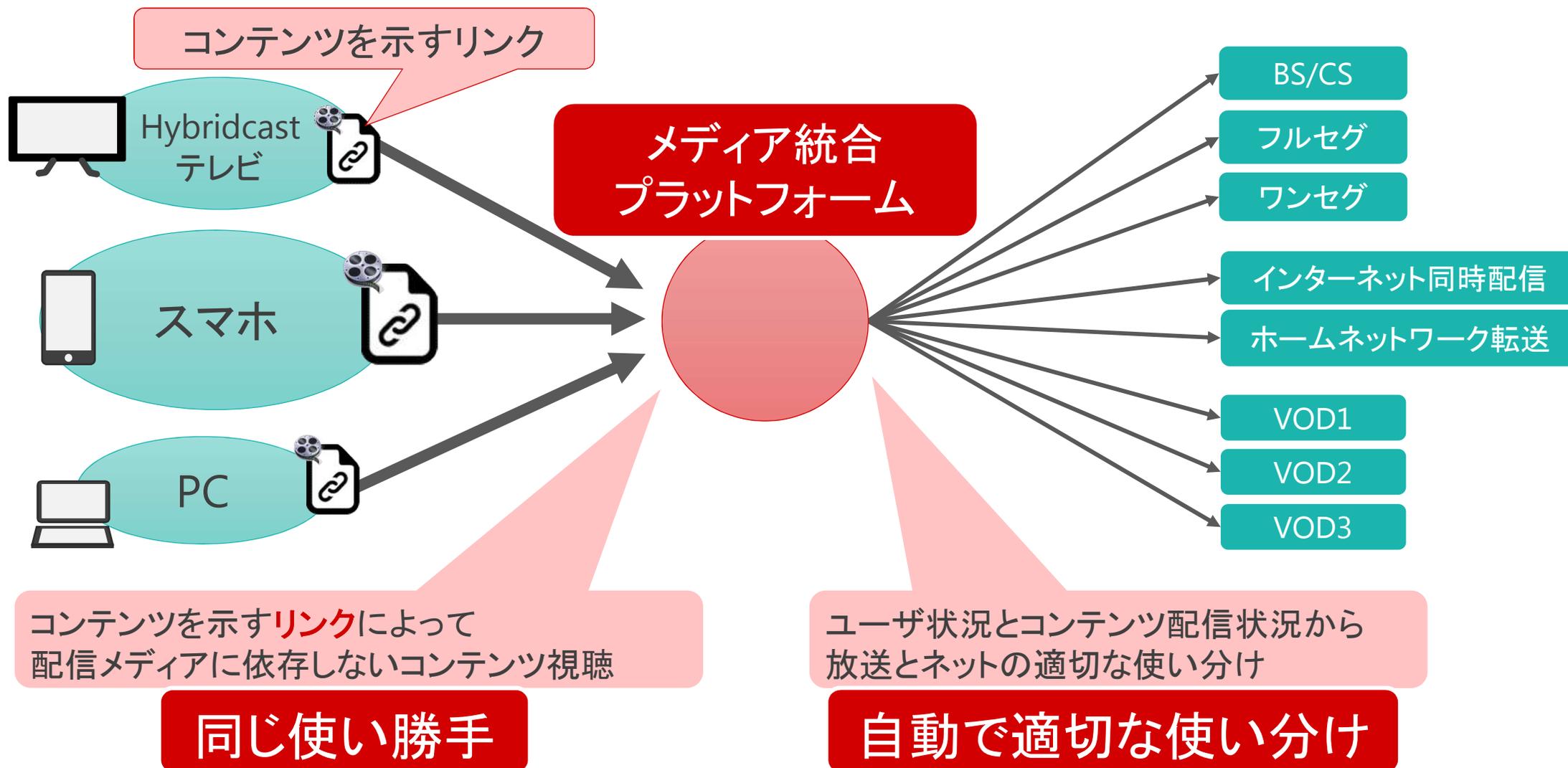
放送局

莫大な**配信コスト負担**（放送受信は一定コスト）

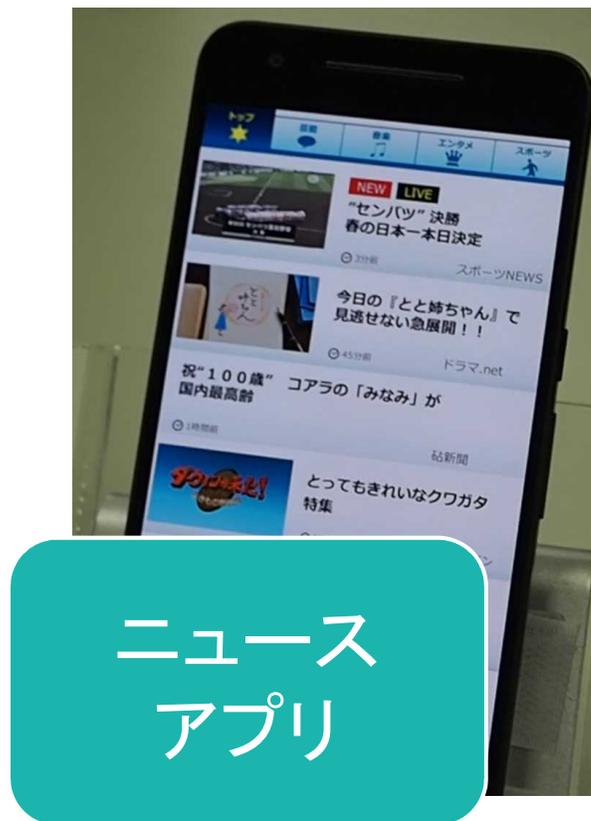
接触率の低下

提案

メディア統合プラットフォーム

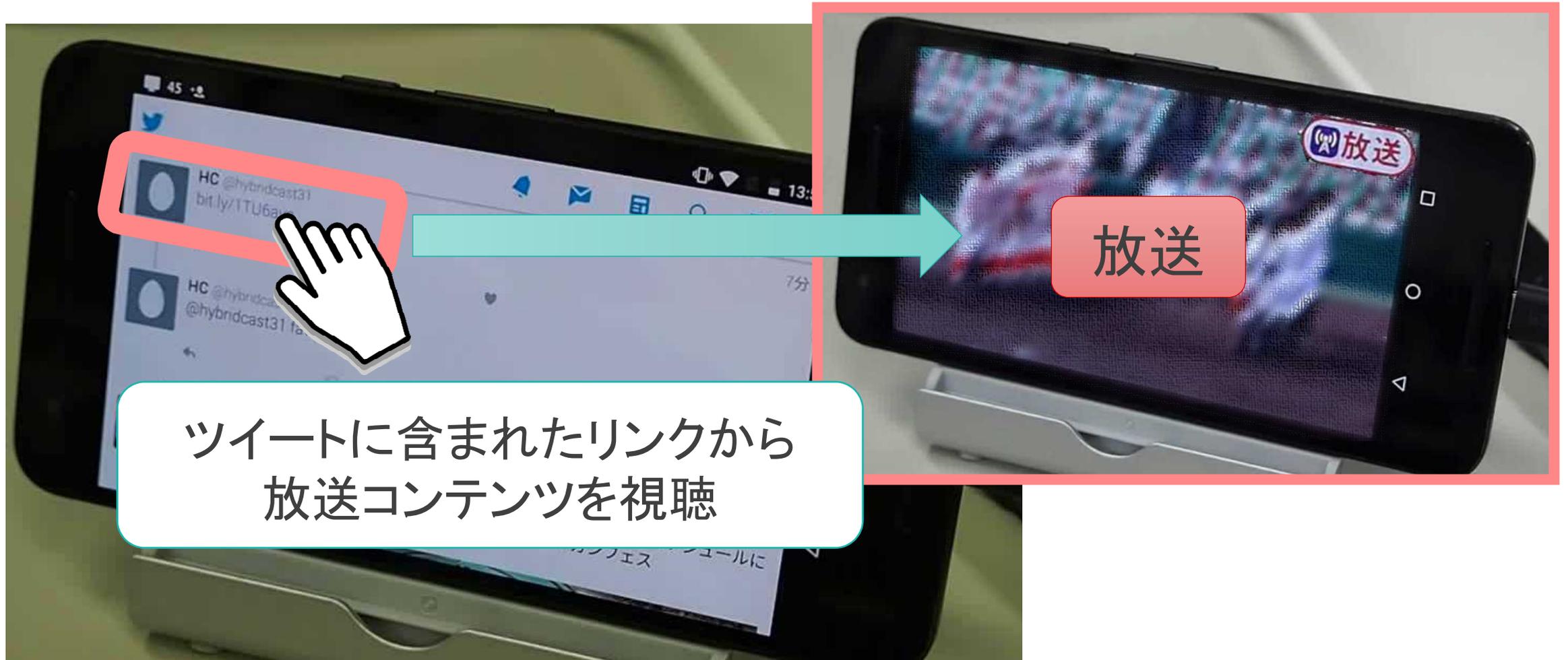


リンクで、ネットから放送リソースへ



サービス プロトタイプ

Webサービスからの放送視聴(Twitter)



放送受信状態に応じた配信メディア選択

同じリンクから、
自動で適切なメディアで再生

受信状態 ×

受信状態 ○

ネット
同時配信

放送

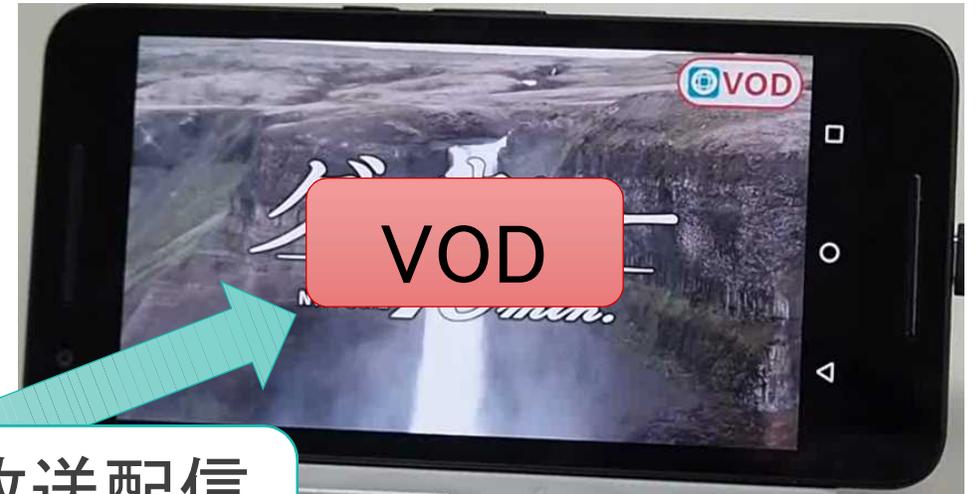


VODも含めた配信メディア選択

コンテンツが放送されていないなくても、
VODなど異なるメディアで再生



放送配信
なし

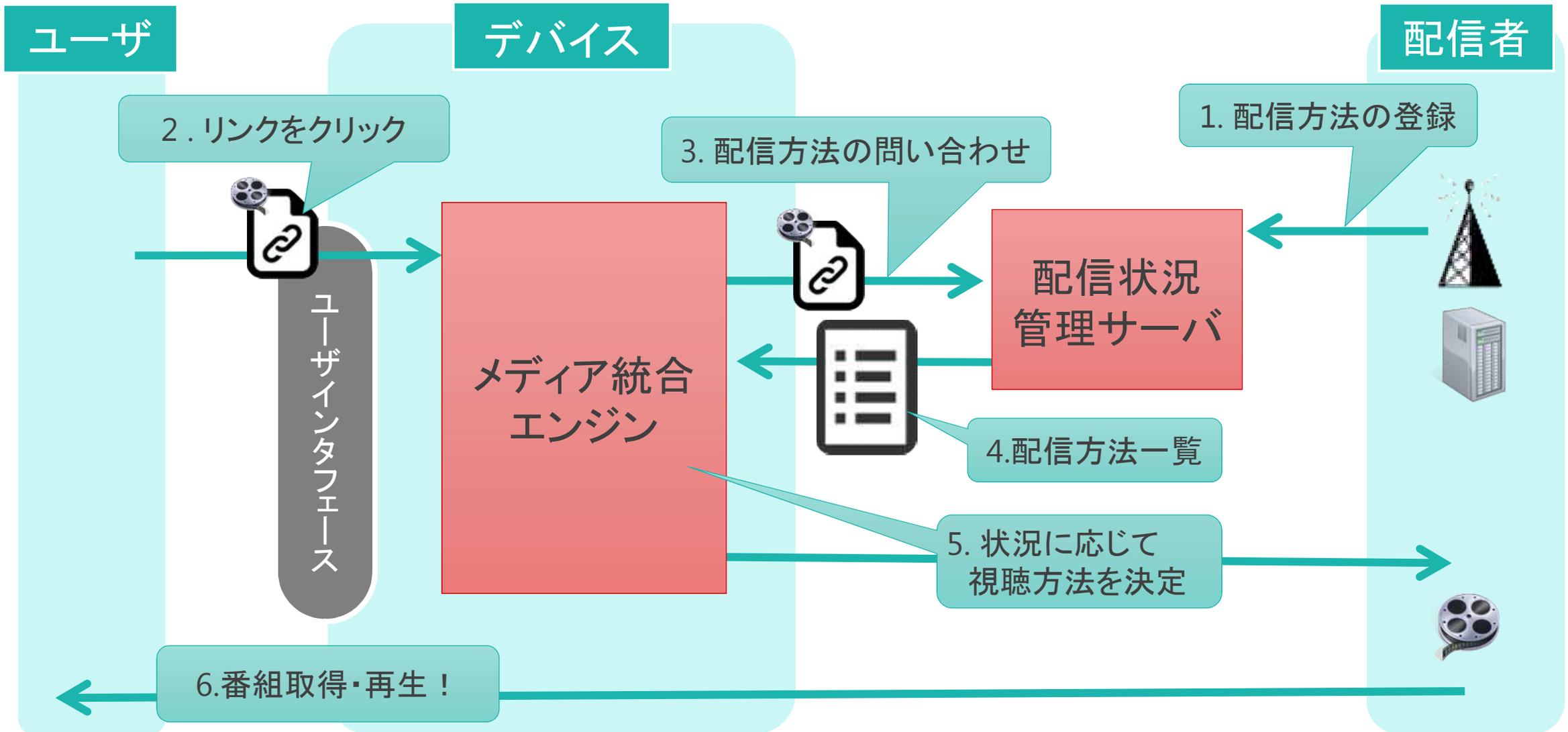


選択メディアの動的な変更

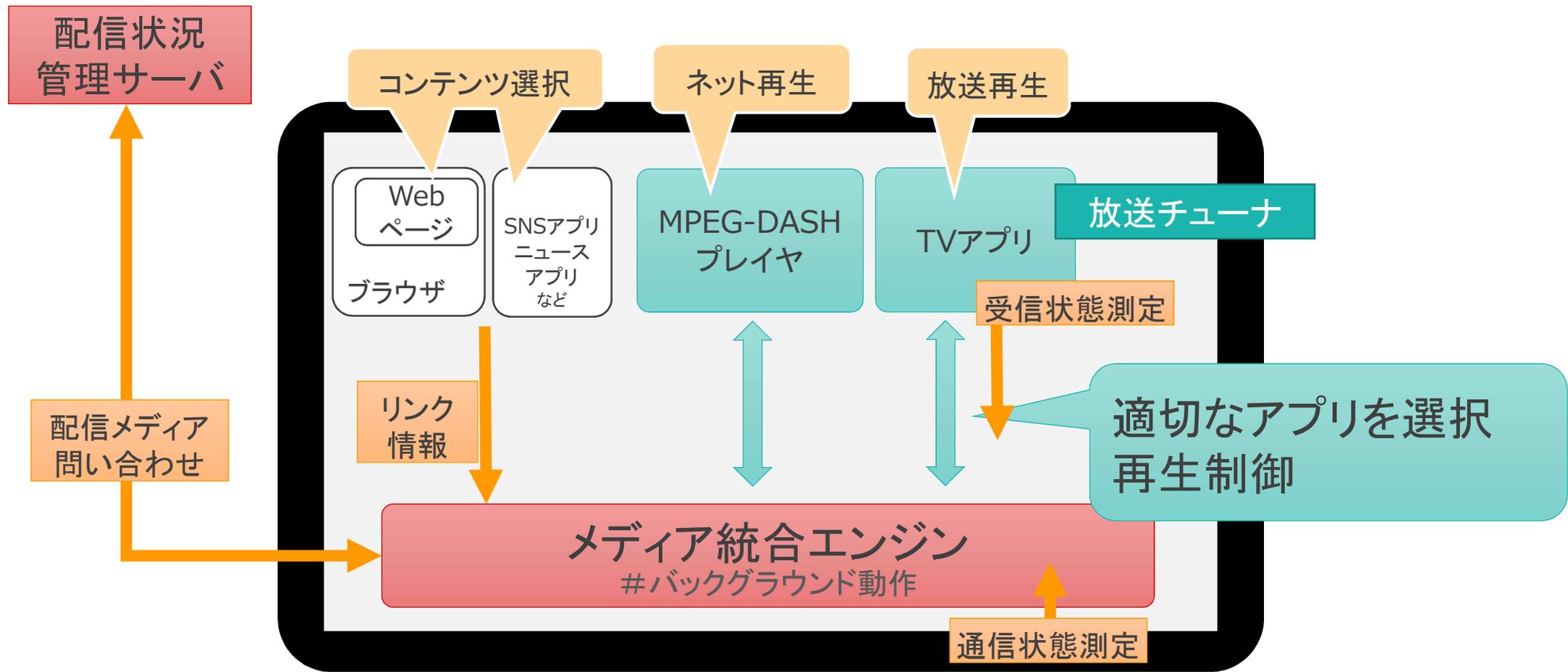
ユーザ状態の変化に応じて、
自動的に適切な配信メディアへ切り替え



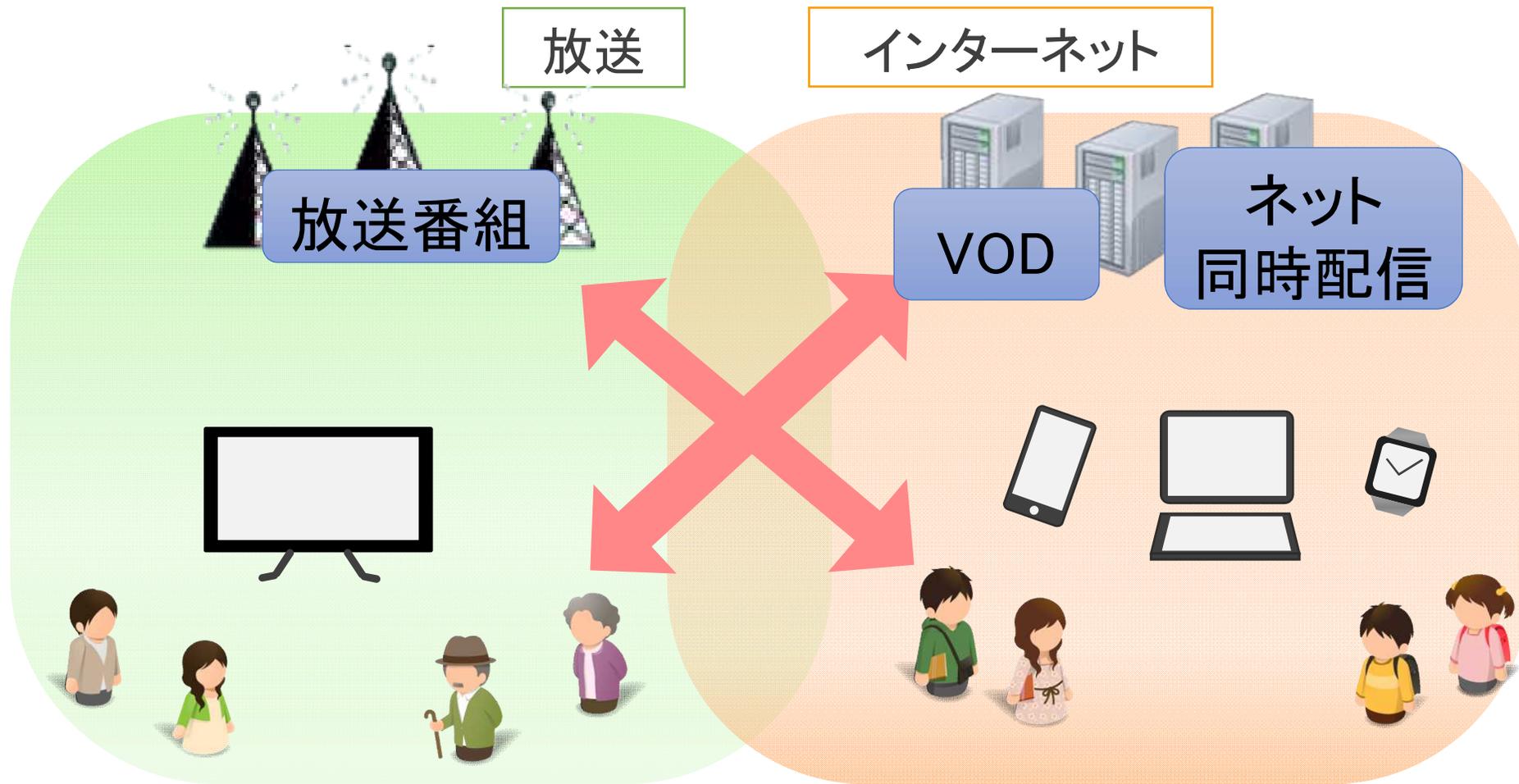
システムモデル



デバイス内の実装構成

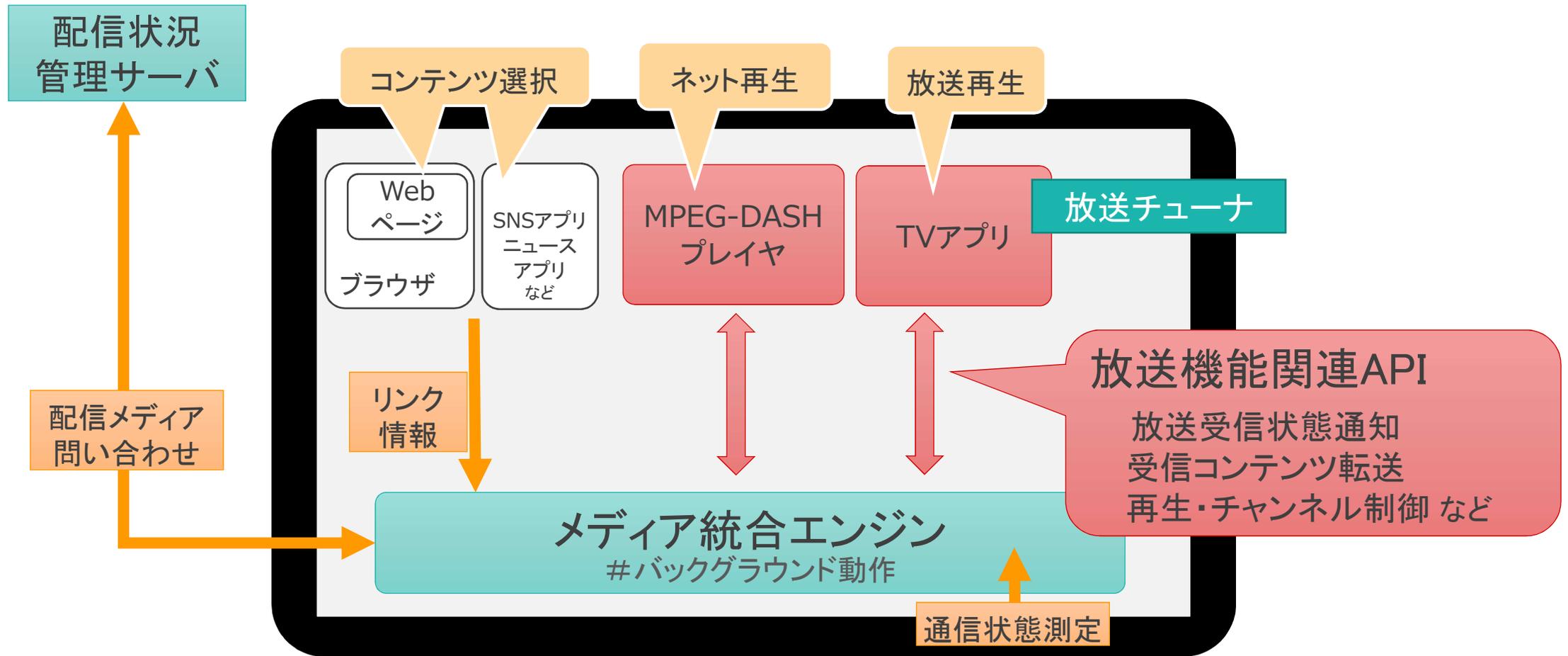


放送とインターネットがつながった世界

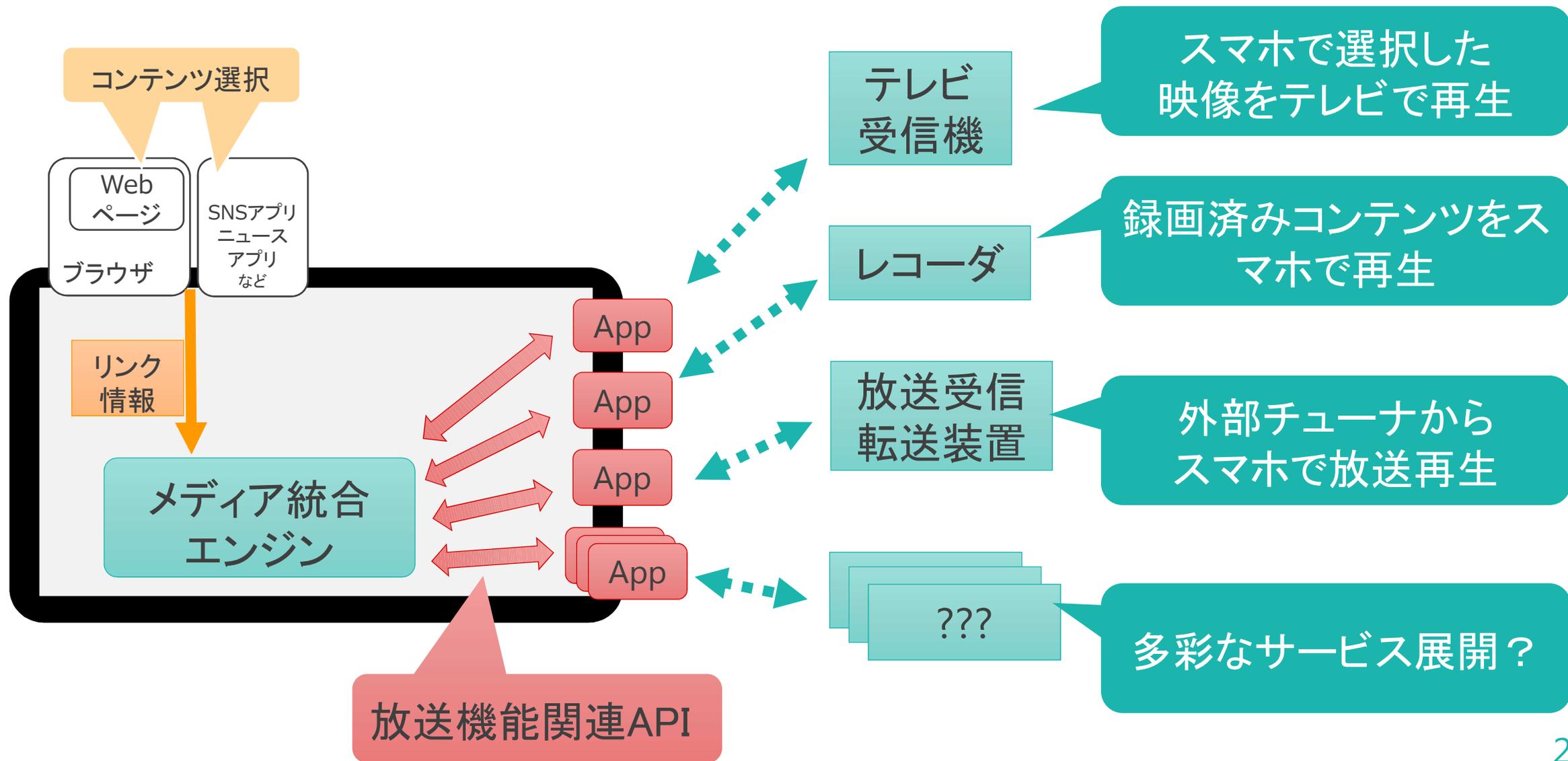


放送関連機能のIoT対応

放送関連機能のIoT対応



IoTでさらなるサービスの展開



必要なこと？

- 放送機能関連APIの共通化，オープン化？
 - 独自規格での通信は各社対応済み
 - 競争分野・非競争分野の整理
- ビジネスモデル
 - だれがコストを負担し，どのように利益を得るか
- メディア統合プラットフォームが
実現されてほしいと想っていたこと

おわりに

- “テレビ”を使いたいと思ってもらうことが放送が今後も役立つために大事
- 使いやすくするための取り組みがメディア統合プラットフォーム
 - その実現へのキーテクノロジーがIoT連携
- “テレビ”と様々な機器・サービスがIoTで連携していけるように取り組んでいきます